

朝日新聞

発行

朝日新聞
東京本社

見学記念
見学記念

〒104-8011
東京都中央区新富
5丁目3番2号
朝日新聞東京本社
見学係
03-5540-7724



朝日新聞の第1号は、1879年(明治12年)1月25日に大阪で発行されました。1部(4ページ)が1紙で、1カ月の購読料は18銭でした。当初の部数は約3,000部

大阪で創刊

でしたが、1883年(明治16年)には2万部を超え、全国のトップになりました。1888年(明治21年)には東京朝日新聞も創刊されました。今では東京、大阪、西野、香港などでも印刷、発行されています。世界に広がる

います。2011年5月には、携帯端末やパソコンなどで読む電子新聞「朝日新聞デジタル」も創刊。携帯電話へのニュース配信なども充実しています。

報道・編成局や印刷工場を見学

8月25日、東京都中央区築地の朝日新聞東京本社で社内見学会が開催されました。参加された皆さんは、本館2階の読者ホールで見学案内を担当する係から説明を聞いた後、紹介ビデオを見たあと、実際に新聞作りをしている報道・編成局や印刷局を回りました。

138年の伝統 漱石や清張も

きょうお越しいただいた朝日新聞は2017年、創刊138周年を迎え、名実ともに長く日本の言論界をリードしてきました。1945年11月7日、宣言「国民と共に立つ」を掲げ、民主主義の確立に奇功を挙げ、数多くの特報を掲載してきました。特に調査報道分野ではロッキード事件やリクルート事件をはじめ、数々の業績から「お家」などと称されています。朝日新聞の伝統は、大勢の先人たちの努力によって築かれました。そして多くの読者の信頼で支えられ、営々として新聞発行の使命を果たしてきました。文豪・夏目漱石は、東京帝大の講師を務めて1907年、41歳で朝日新聞に入社しました。入社後、変わり物の余を変わり物に選ばれる機に際して、朝日新聞のために、変わり物として出来る限り、余の余の備しき義務を尽す」と書いています。

漱石はすでに「吾輩は猫である」などを発表していましたが、朝日新聞では、「虞美人草」「三四郎」「心」など、数多くの小説を連載。文芸欄の編集も担当し、新進作家を発掘したりしました。1904年には、言文一致体で小説を書き、日本の近代小説に新分野を開いた二葉亭四迷が入社しています。「真面目」「平凡」を書きました。二葉亭は希望してロシア特派員になりました。

が、現地で病気になる。志半ばで亡くなりました。「二葉の砂」などを発表し、天折した天才歌人・石川啄木も1909年に校正係として入社しましたが、歌の才能が認められ、朝日歌壇の運営に抜擢されています。時代が下って昭和になると、「ゼロの焦点」と題した本を書いた松本清張がいま。朝日新聞の広告部に1937年から56年まで在籍しました。また、「源野物語」を書き、日本の民俗学の祖といわれる柳田泉男は朝日新聞の論説記者として社説を執筆。民本主義を唱えた政治学者吉野作造も一時、朝日新聞社員でした。東洋史学の内藤湖南も論説を担当しました。今も茶の間の人気番組「サザエさん」は、長谷川町子の作で、1949年から25年間、6477回にわたって、朝日新聞に掲載されています。紹介すべき人はまだまだありますが、「無名の社員」たちの力も無視できません。小さな朝日新聞の大きな一歩が朝日新聞の伝統を確実に引き継いできました。◆感想をお寄せ下さい◆ みなさん、朝日新聞社を見学して、新聞が出来たまでの仕組みがお分かりいただけましたでしょうか。本日の見学で感じたこと、もつと知りたかったこと、お気づきの点などがあれば見学係へお寄せ下さい。宛先はこの新聞の右上にあります。

ようこそ 朝日新聞東京本社へ



朝日新聞の社内見学会に参加された皆さん
8月25日、東京・築地の朝日新聞東京本社



渦中の人物に取材する記者



編集作業中のスタッフ



高速オフセット回転機